

2016年にクロスフィールズが行った、約20人の留職プログラム卒業生を対象としたヒアリング調査では、留職者の3つの帰国後の活躍タイプと成長に向かってきました。Key Driver(鍵となる要素)が明らかになってきました。クロスフィールズでは今後もこうした追跡調査を行うとともに、卒業生に対する伴走を続けていきます。

6年間での留職プログラム実績

参加人数
119人

導入社数
30社

派遣国数
10ヶ国

受入団体数
72団体

Enterprise Leader

組織リーダー型

周囲の社員を奮い立たせ、組織のなかでリーダーシップを発揮してチームを引っ張るタイプ。Key Driverは、留職プログラムで得た学びを実践できるグローバルな業務環境の提供。



医療系機関での遠隔診療の効率化に向けたAndroidアプリ開発

India / 2015.9-12

Global Leader

グローバルリーダー型

グローバルな環境で自ら道を切り拓いていくタイプ。Key Driverは、アイデア創造のチャレンジを続ける原動力となる、志を共有できる社内外のネットワーク・応援者の存在。



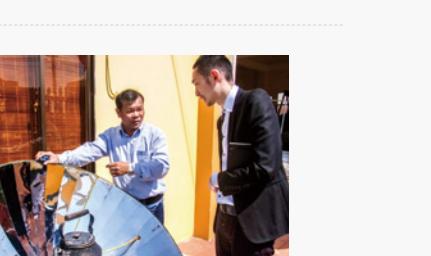
医療系NGOでの医療廃棄物処理のオペレーション改善

Indonesia / 2013.1-3

Innovator

事業創出リーダー型

新たな事業や価値を創造していくイノベータータイプ。Key Driverは、アイデア創造のチャレンジを続ける原動力となる、志を共有できる社内外のネットワーク・応援者の存在。



社会的企業でのソーラー調理器具の製造コスト削減

Vietnam / 2012.2

留職先で体感した「エンジニアとして働く喜び」を感じられる職場の実現を目指し、リーダーシップをとってチームを牽引。互いの仕事や業務に対する想いを知り合うため、メンバー同士で業務について語り合う会合を定期的に主催。

自分の枠に囚われていたことに気付き、できることはやった上で、できないことを素直に言えるようになりました。今後も自分の能力に限界を設けず、同僚達が笑って全力で働ける環境を作っていくたいです。

南竹 俊介さま(31)
株式会社日立製作所
技術職

研究職として留職プログラムに参加後、3年間米国に駐在して新規事業立ち上げに参画。現地では自身の専門分野に留まらず、経理・物流・営業管理・新規営業に携わる。帰国後は経営企画室にて活動中。

留職を通じて、働いて社会に貢献する熱い想いと、それをチームに伝播させる行動力が身につきました。仕事の本質を考え行動できるようになり、現在の仕事に大変活かされています。

高橋 光さま(33)
テルモ株式会社
企画営業職

帰国後、海外事業起ち上げに社内コンサルタントとして従事。社内外での新規事業提案に繰り返し挑戦し、Game Changer Catapult 参画、発酵調理キットサービス「The Ferment」をSXSW2017で展示、リーダーとして商品化に向け取り組む。

留職先に「仕事が社会の役に立っている自信があるか?」と問われ、解くべき課題を考え直しました。社会課題の解決につながる事業を会社に提案し、初心に描いた事業に辿り着くよう奮闘中です。

山本 尚明さま(39)
パナソニック株式会社
企画職

留職でリーダーシップを学び鍛えた人材から社会の変革!

リーダーシップは組織の長だけでなく事業の前線で日々奮闘されるすべての方に求められています。天性の資質としてではなく「学び鍛えられるスキル」としてのリーダーシップを習得できる留職プログラムから、これから社会の変革を担うリーダーが生まれることに期待しています。

※伊賀さまには留職プログラム参加者の成長を可視化するアセスメントツールを共同開発して頂いております。

有識者からのコメント

組織・人事コンサルタント
「採用基準」「生産性」著者
伊賀 泰代さま

Message from Supporters 応援メッセージ

境界を超える、マインドセットを変える
最高の仕掛け

クロスフィールズの取り組みは、企業人材を「革新型」に変える最高の仕掛けです。これからのビジネスではイノベーションが不可欠ですが、多くの企業でそれが掛け声倒れなものも事実です。いくら座学・企業内OUTで学んでも人の「マインドセット」が変わらなければ、人・組織が動かないからです。だからこそ、社員のマインドセットを「革新型」に変えるクロスフィールズが、これからの時代に圧倒的価値があるのです。

早稲田大学ビジネススクール准教授
入山 章栄さま

Founder & Executive Director
of Saujana Indonesia
Ruby Emirさま

株式会社PubliCo代表取締役COO
山元 圭太さま
山元様はクロスフィールズの運営するシェアオフィススペースにご入居されています

Message from Cross Fields クロスフィールズからのメッセージ

活動の真価が問われるいま、クロスフィールズは挑戦を続けます

2016年度はクロスフィールズの活動の広がりを実感する年でした。留職プログラムの参加者はついに100人を超え、出版や「ガイアの夜明け」での特集などを通じ、活動の社会的な認知は更に広がりました。しかし、私達が目指すのは単純な事業拡張ではありません。どれだけ「社会を変えたのか」でこそ、自分たちの価値は測られるべきであり、2017年度はまさに活動の真価が問われる年だと思っています。これまでの活動で得た資産を活かしつつ、今後も恐れずに挑戦を続け、社会の未来を切り拓いていく所存です。どうか皆様、これからもクロスフィールズを応援よろしくお願いします。



Media Recognition メディア掲載

新聞・雑誌:23回

日本経済新聞、朝日新聞、国際開発ジャーナル、Forbes Japan 等

ウェブ:28回

Harvard Business Review、東洋経済オンライン、リクルートワークス機関紙『Works』等

テレビ・ラジオ:6回

テレビ東京「ガイアの夜明け」等

出版

『働く意義の見つけ方—仕事を「志事」にする流儀』
(小沼大地著/ダイヤモンド社)

Talk Sessions & Events 講演・イベント

講演:35回

日本・ASEAN経営者会議、世界平和のための国際経済人会議 等

イベント:10回

企業向けフォーラム、インドネシア社会起業家招聘イベント 等

クロスフィールズ

検索

http://crossfields.jp



CROSS FIELDS

特定非営利活動法人クロスフィールズ

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 鎌原ビル4F

TEL:03-6417-4804 E-MAIL: info@crossfields.jp

クロスフィールズ

検索

http://crossfields.jp



CROSS FIELDS

ANNUAL REPORT
2016-2017Beyond the Border,
Create the Future.

枠を超えて橋をかけ 挑戦に伴走し 社会の未来を切り拓く

Beyond the Border, Create the Future

2011年の創業以来、「社会の未来と組織の未来を切り拓く」というミッションを掲げて活動を展開してきたクロスフィールズ。6周年を迎えるこのタイミングで、1年以上にわたるチームでの議論を経て「枠を超えて橋をかけ、挑戦に伴走し、社会の未来を切り拓く」という新たなミッションを定めました。今後も留職プログラムを旗艦事業としつつ、このミッションとともに、新しい事業にも積極的に挑戦しながら、社会に新しい価値を創出し続けていきます。

留職プログラム

Corporate Volunteering Program



社会課題に取り組む新興国のNPOや企業とともに、本来のスキルを活かして課題解決に挑むプログラム。企業のリーダー人材育成と新興国の社会課題解決両方を同時に実現。

社会課題解決ワークショップ

Social Business Creating Workshop



社会課題の現場に精通するNPOのリーダーとともに現地の社会課題を解決する事業アイデアの創出に取り組むアクションラーニング。



ソーシャルセクター支援

Social Enterprise / NGO Support



社会課題解決に取り組むNPOや社会的企業のニーズに向き合い、セクターや国境を超えた協働の促進などを通じて、課題解決のサポートを実施。

講演

Talk Session



「リーダーシップ」、「働き方」、「CVP/BOPビジネス」、「起業家精神」、「グローバルマインド」等をテーマに講演。要望に応じワークショップ等付属した設計も可能。

Projects 2016-2017

2016年度の各事業でのプロジェクト事例

留職プログラム Corporate Volunteering Program

参加人数 20人 派遣国 6ヶ国 受入団体 16団体

Case 100 Cambodia / 3 months

ITツールを活用したデータ分析を通じ、経営戦略をもとに業務遂行できる仕組みを推進

株式会社電通国際情報サービス / ITエンジニア / 野澤 桜子さま

貧困層の人々を雇用して職業訓練を行い、自立を支援する社会的企業に留職した野澤さん。当時は業務効率化やIT全般に対するアドバイスを求められたものの、本当に団体にとって役に立つ仕事は何かを考え抜き、メンバーが経営を意識して業務にあたれるようサポートすることに徹しました。野澤さんが売上データ分析の方法を伝え、顧客調査なども実施することで、メンバーたちはデータに基づいた施策を考えられるようになりました。また、意見を言いやすい職場環境づくりや、きめ細かい指導を行う仕組みづくりにも大きく貢献しました。「大事なのは相手のニーズに応えること」「人を動かすのは熱意と作戦」といった沢山の気づきを得た野澤さんは、「ビジネスを通じて社会に貢献したい」という想いを胸に帰国後も日々奮闘しています。



Case 101 Indonesia / 4 months

科学的アプローチで研究体制の整備を推進し、農村部の雇用創出と生活向上に貢献

ハウス食品グループ本社株式会社 / 研究職 / 大西 耕太郎さま

現地農家から適正価格で購入した作物を加工・販売するビジネスを行う社会的企業に派遣された大西さん。研究開発のノウハウが十分でないことに気づき、新商品サンプルを開発するとともに、スタッフだけで研究開発を進められるよう技術移転や研究体制を整備しました。留職先の代表からは「これまでトライ＆エラーを繰り返すしかなかったが、科学的なアプローチで商品開発を前に進めることができた」と喜びの声を頂きました。また、日本にいる協働チームメンバー3名を巻き込みながら業務を進める経験からは、「ビジョン共有」と「自分の弱みを晒すこと」の大切さにも気付きました。ハウス食品の目指す「食を通じて家庭の幸せに役立つ」という想いを更に強くした大西さんは、帰国後も研究所で新規事業に意欲的に取り組んでいます。



社会課題体感 フィールドスタディ Social Issue Understanding Field Study

Social Issue Understanding Field Study



国内外の社会課題の現場を「体感」し、困難な課題に立ち向かうリーダーの活動と志から刺激を受ける、管理職・経営者向けのプログラム。

社会課題体感フィールドスタディ Social Issue Understanding Field Study

開催数 4件 参加人数 40人

Case 04/05 Vietnam / Philippines / 1 week each

ASEANの社会課題の現場を体感し、自社の創業の理念へと立ち返る

江崎グリコ株式会社 / 部長級社員20名

各回10名規模の部長級社員がベトナム・フィリピンにそれぞれ約1週間ずつ滞在し、「食と栄養」をテーマに社会課題の現場を「体感」しました。低所得者の家庭を訪問するとともに、農業支援や職業訓練などの事業で現地の課題解決に取り組むNPO・社会的企業など9団体のリーダーたちと対話を実施。参加者同士が内省を行う機会も現地では数多く設け、参加者からは「起業家の方々が持つ志が困難を乗り越える意思の強さに結びついていたことを感じた」、「おいしさと健康」というグリコの企業理念を改めて誇りに感じた、「社会課題の解決が創業の原点であり事業の目的であることを再確認した」といった声が聞かれました。参加者の社会課題に対する解像度が高まると同時に、それがどのように本業とつながるのかを深く考え抜く機会となりました。



社会課題解決ワークショップ Social Business Creating Workshop

Social Business Creating Workshop

開催数 6件

参加人数 75人

Case 25 ケニアのBOP層が対峙する社会課題(環境、医療、衛生) / 3 months

アフリカの社会課題を「自分ごと」として捉え、自社のリソースを使った解決アイデアを考える

パナソニック株式会社 / 有志社員11名

同社で10回となるワークショップのテーマはケニアのBOP層の課題。参加者自身の関心事を起点とし、現地の社会課題をより「自分ごと」として捉え、枠にはまらないアイデアの創出を目指しました。現地に精通するOSAジャパン会長の坂田泉氏をゲストに迎え、「形から入るのではなく、現地の文化や生活様式に即した“カタ”を考えること」などのアドバイスを受けながらアイデアを磨き上げていき、約3か月のチーム活動を経て、「共同キッキンを核としたコミュニティ作り」、「トイレから“キレイ”的価値を届けるプロジェクト」といったユニークなビジネスプランが生まれ、パナソニックのアフリカ担当部署への提案につながりました。



ソーシャルセクター支援 Social Enterprise / NGO Support

開催数 2件

参加数 3団体

Case 02 インドネシア・日本の社会的企業(障害者雇用分野)の協働サポート

日本とインドネシアの国境を越えた学び合い、包括的な社会の実現を目指す

Saujana(インドネシア)×FDA(日本)※トヨタ財団国際助成プログラム

2016年11月より、障害者の就労支援の活動を行うインドネシアの社会的企業Saujanaと日本のNPO法人FDAとの国境を越えた学び合いを支援するプロジェクトを行っています。2017年3月にはインドネシア側が日本を訪れ、FDAや障害者雇用を推進する日本企業の視察から多くの学びを得ました。障害者就労促進を通じた包括的な社会の実現を共通のゴールとする両団体の協働は、双方に大きな学びと刺激を与えるとともに、両団体が対峙する社会課題の解決促進の一助となっています。本プロジェクトは公益財団法人トヨタ財団から助成を頂き、JETRO開発研究センター・主任調査研究員森壮也氏のご協力を頂いて実施しています。



国内での取り組み Projects in Japan

社会課題体感フィールドスタディ Social Issue Understanding Field Study

Case 03 福島県南相馬市 人事・CSR・経営企画 / 役職者・担当者11名(複数社参加型) / 1泊2日

震災と原発事故が何をもたらしたかを一人称で体感

「社会課題の一人称での体感」をテーマとして、クロスフィールズではこれまで東北の被災地を訪れるフィールドスタディを複数回にわたりて開催しています。2016年6月に福島県南相馬市を訪問した1泊2日のプログラムには、5社から人事・CSR・経営企画の役職者9名が参加しました。本プログラムは一般社団法人あすびと福島との共催で行われ、震災や原発事故の影響が残る浪江町や小高区の視察や、現地で復興に取り組むリーダーや住民の方々との対話を行われました。現地では内省の機会も多く設けられ、参加者たちは南相馬での刺激をどのように社内に還元するか、また、社会課題をどのように事業・経営に生かすかを考え抜きました。



社会課題解決ワークショップ Social Business Creating Workshop

Case 24 島根県雲南市 株式会社リクルートキャリア / 有志社員14名 / 3months

20年先を行く高齢化の課題を抱える「課題先進地域」で採用を通じた地方創生

リクルートキャリアでは、企業理念を体感するとともに社会起点で事業を発想する考え方を理解するため、2016年12月から約3か月かけて国内の社会課題をテーマにワークショップが開催されました。舞台となったのは20年先を行く高齢化の課題を抱える「課題先進地域」と呼ばれ、住民主体のまちづくりを行政がけん引する島根県雲南市。14名の参加者たちは3チームに分かれて活動を行い、2度にわたる現地視察を経て、「人材・組織戦略」「医療・介護」「教育」に取り組む3団体に対して同社の強みである採用支援を軸とした事業戦略を提案しました。

